



所属・職位	福祉健康科学部 福祉健康科学科 心理学コース・准教授	
氏名	村上 裕樹 (Murakami Hiroki)	
取得学位	博士 (心理学)、名古屋大学、2012年5月	
SDGs目標		

研究分野	心理学
研究キーワード	感情、自律神経活動、脳、生理反応、マインドフルネス
研究内容	<p>● 情動制御の神経生理学的メカニズムに関する研究</p> <p>さまざまな心理療法に組み入れられている認知活動について整理しなおし、ストレスの低減につながる認知活動と感情反応、脳機能、自律神経活動、免疫・内分泌系反応の関連性について研究しています。</p> <p>特に現在は、ストレスの低減やうつ病の再発予防効果が認められている「マインドフルネス」に注目しています。</p> <p>※関連リンク：https://researchmap.jp/h.murakami</p>
研究業績・アピールポイント	<p>● 論文</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Kobai, R. & Murakami, H. (2021). Effects of interactions between facial expressions and self-focused attention on emotion. PLOS ONE, e0261666. 2. Terasawa, Y., Oba, K., Motomura, Y., Katsunuma, R., Murakami, H., & Moriguchi, Y. (2021). Paradoxical somatic information processing for interoception and anxiety in alexithymia. European Journal of Neuroscience. 54(11), 8052-8068. 3. Murakami, H., Katsunuma, R., Oba, K., Terasawa, Y., Motomura, Y., Mishima, K., & Moriguchi, Y. (2015). Neural Networks for Mindfulness and Emotion Suppression. PLoS One, 10(6), e0128005. <p>● 著書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 村上裕樹 (2012). 第7章心的外傷後ストレス障害 (pp. 169-202) 熊野宏昭・今井正司・境泉洋監修『メタ認知療法：うつと不安の新しいケースフォーミュレーション』(全395頁) 日本評論社 <p>● 受賞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 村上裕樹・松永昌宏・大平英樹 (2008). 遺伝子多型が脱中心化による感情制御に及ぼす影響 日本感情心理学会第16回大会 (大妻女子大学, 5月)